

□議員名：吉永美子

1 施政方針について

論点	市長は、施政方針の中で、小中学校のトイレの洋式化について「おおむね5年を目標として100%充足することができるよう取組を加速させていく」と述べているが、3期目の任期中にどこまで実現していく気持ちなのか。
回答	現在、設計業務費の予算化に向けて準備を進めており、整い次第、補正予算を議案として提出させていただきたい。設計業務については、令和7年度末から令和8年度末までの約1年を要するものと見込んでおり、令和9年度から令和12年度までの4年間で、洋式化工事に取り組む予定だが、児童生徒の教育環境の改善を図るため、可能な限り早期の実現を目指していきたい。任期中にどこまで実現するかは、現時点では言えない。

論点	トイレの洋式化を進めるに当たり、市として留意点はあるのか。
回答	留意点として考えられる洋式化工事を行う順番については、今後の設計を踏まえた判断となるが、学校運営や効率的な事業執行の観点から、基本的には、洋式化率の低い学校から順に、学校単位で工事を進めていく予定としている。

論点	トイレの洋式化を進めるに当たり、ウイルス感染等を考えると、便座を清潔に保つという除菌の取組が、今後必要にならないか。
回答	除菌等の問題は出てくると思う。今現在も、トイレの洋式化がされているところがあるので、実態としてどうなのかというところもしっかりと勘案しながら、進めてまいりたい。

2 3月議会の一般質問での答弁について

論点	小規模土木事業の予算について、大変ニーズが高い事業でありながら、今年度の予算が昨年度の最終予算額を下回っていることから、増額するよう提言をした際、「財源が枯渇する」との副市長答弁があり、市民に誤解を与えかねないため発言の削除を申し入れたが、拒否された。発言の真意を聞きたい。
----	---

回答	答弁した言葉の真意は、市の予算にも限りがあり、小規模土木事業に限らず、議会全員から要望を頂いている全ての事業に対して実現を図ろうとすれば、財源が枯渇するという意図によるものである。
----	--

論点	大変おかしい答弁だと思う。小規模土木事業について増額の考えはないかと聞いた。私の一般質問であり、議員全体の話ではない。どういう真意があって、こういう答弁になったのかを聞いている。副市長には二度とこのような発言をしないよう提言する。
回答	市の全体の財政をつかさどる立場からすると、副市長は、全ての要望に答えると枯渇するということを答えたのだと思う。

3 環境問題について

論点	一昨年の6月議会で、給食センターと市民病院での給食残渣について、リサイクルできないか提言し、昨年の6月議会で検討状況を聞いた。その後の進捗状況を確認する。
回答	学校給食の残渣について検討したところ、養豚の飼料として取引業者に依頼するに当たっては、現在の処理コストの6倍以上がかかることから、現時点では、養豚の飼料としてリサイクルを進めることは難しいと判断している。市民病院については、経済性の観点から、病院の給食残渣に混じる菓の包装などの異物分別方法、また飼料化の前提条件である腐敗防止対策など、課題解決に至っていない。この課題解決については、費用負担の増加も見込まれることから、現時点では難しいと考えている。

論点	昨年の6月議会で、国が努力義務としている「食品ロス削減推進計画」の策定を提言した際の答弁を踏まえ、その後の検討状況を聞く。
回答	食品ロス削減推進計画を策定するという前提には、まだ立っていない。策定すべきかどうかとも検討中である。こういった枠組でこの計画を策定するかというところまでは、現在、答弁できる状態にない。

論点	長年提言してきた「緑のカーテン」について、コンテストを行っていた時よりも写真展への応募数が減少しているが、どのように推進
----	--

	していくのか。
回答	どのようにして参加者を増やすかということでは、具体的な施策は見つけ切れていないが、SNS等、デジタルツールが普及しているので、活用する方法がないか具体的に考えようとしている。

4 生活ごみに関する住民サービスの向上について

論点	ごみステーションの設置について、現在の関係戸数20戸を、地域の実情に応じてもっと柔軟に対応できるよう規定を改正できないか。地域によっては家が増える要素はないに等しい中、高齢化は進んでいる。地域の実情による柔軟な取組を求めるが、いかがか。
回答	ごみステーションの設置基準として、燃えるごみのステーションは20世帯以上を目安としている。この基準を改める予定はないが、それぞれの地域で状況が異なるので、新設や移設の申出、相談があった場合は、現地確認し、周辺状況、関係世帯の実情等を踏まえ、柔軟に対応していきたい。

論点	独居の高齢者が増える現状を踏まえ、ごみ出しに苦慮する高齢者等に対するごみ回収サービスを提言する。
回答	ごみ回収サービスを直ちに実施する予定はない。高齢化の進展により支援を必要とする方の増加が見込まれるため、ごみ回収サービス等のごみ出し支援についての必要性は感じているが、まだ制度についての研究が不足していると感じている。

5 公共料金等におけるキャッシュレス支払いの導入について

論点	国民保険料やきららガラス未来館の体験料金について、クレジットカード等による支払いを進められないか。
回答	国が本腰を入れて、公金収納についての取組を進めている。近々、税以外の公金についても対応と聞いているので、そのような状況の中で、国の動向を見ながら取組を進めていきたいと考えている。きららガラス未来館は指定管理者制度を導入している。基本的には、料金の決済手段を含む施設の運営手法については、指定管理者の裁量によるものであり、市が関与すべき案件ではないと考えている。